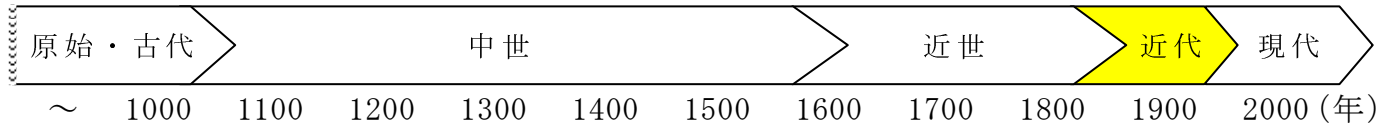


3 明治時代の民衆とひろしま ～海外への移民～



1 移民とはどのようなことでしょうか？

移民とは、労働を目的として外国に移り住むことを言います。

広島県は全国でも移民数の多い県として知られています。1882(明治 15)年から始まった北海道への開拓移住においても広島県からは多くの移住者が出ています。しかし、1885(明治 18)年以降は人数が減少していきます。これには、同年から始まったハワイ王国への官約移民に深い関係があると考えられます。

官約移民とは、日本とハワイとの協約に基づき、3年契約でハワイのサトウキビや砂糖の生産のための労働者として送り出された移民のことです。この制度のもと 1894(明治 27)年6月まで 26 回にわたり、日本政府主導で全国から約 3 万人が送り出されました。県別にみると、広島県が約 1 万人で最も多く、全体の 38.2%を占めていました。

官約移民の制度廃止後は、政府の許可を受けた移民会社のあっせんによることになりましたが、ハワイがアメリカに併合されたのを機に、1900(明治 33)年に契約移民が禁止され、移民の主流がアメリカ本土へと移ります。明治時代末にはアメリカが移民を制限したため、主な移民先がブラジルなどへと変わっていきました。

年	人数(人)	府県順位
1882	330	3
1883	501	1
1884	637	2
1885	455	9
1886	360	10
1887	81	17
1888	83	20
1889	52	26
1890	125	18

広島県民の北海道移住者数
 (『広島県移住史』)

県名	官約移民(人)
広島県	11,122
山口県	10,424
熊本県	4,247
福岡県	2,180
その他	1,111
全国計	29,084

県別官約移民人数
 (『日系移民、海外移住、異文化交流の今昔』)

(単位 人)

年代	1868～1890	1891～1910	1911～1930	1931～1945	計
※北アメリカ	21,351	230,776	153,673	5,609	411,409
中南アメリカ	—	20,389	126,103	97,680	244,172
計	21,351	251,165	279,776	103,289	655,581

第二次世界大戦以前の地域別・年代別移住者数 ※ハワイを含む
 (『日系移民、海外移住、異文化交流の今昔』)



なぜ、当時の人々は移民を希望したのでしょうか？また、なぜ、広島県からの移民が多いのでしょうか？

2 なぜ、当時の人々は移民を希望したのでしょうか？

官約移民は、農業に従事する出稼ぎ労働者で、永住を目的とするものではありませんでした。

	給 金 (円)		食 費 (円)		備 考
	男(夫)	女(妻)	男(夫)	女(妻)	
官約移民 第1回	108.00	72.00	72.00	48.00	船賃雇主持・薪無料 船賃は25か月払い
第4回	180.00	120.00			
農業年雇	1884年	14.48	7.40	雇主持	雇主持
	1885年	9.98	4.98		

官約移民と農業年雇の年収比較 (『広島県移住史』)

政府が作成

した「出稼人趣意書」では、病気をせずに勤勉に労働すれば3年間に400円の貯蓄が可能だと述べています。官約移民募集に応募者が多数集まったのは、このような政府の宣伝と高額な労働賃金にありました。さらに、船でハワイに渡る費用なども前借りできたこと、日本が深刻な不況の中にあっただけでなく、理由としてあげられます。第1回の募集人員600人に対し全国で2万8000人の応募があり、944人(うち広島県人222人)が移民船で渡りました。

移民した人たちは、稼いだお金を郷里に送ったり、帰国の際に持ち帰ったりしました。1891(明治24)年末の広島県の調査では、ハワイ在住の広島県移民が合計27万円を送金しています。これは同じ年の県予算額の約54%に当たる額でした。送金や持ち帰り金は年々増加し、明治30年代後半には県の歳入総額を超える額に達していました。そうしたお金は、郷里で待つ家族にとってはもちろん、県や国の経済にとっても重要な意味をもっていたのです。

1898(明治31)年にハワイはアメリカに併合され、契約労働は廃止されます。

しかし、その後も日本からの移民は増加し、一時は日本人がハワイの人口の約40%を占めていました。やがて、ホノルルの都市や商店の経営、コーヒーやパイナップル栽培で成功する人々も現れました。

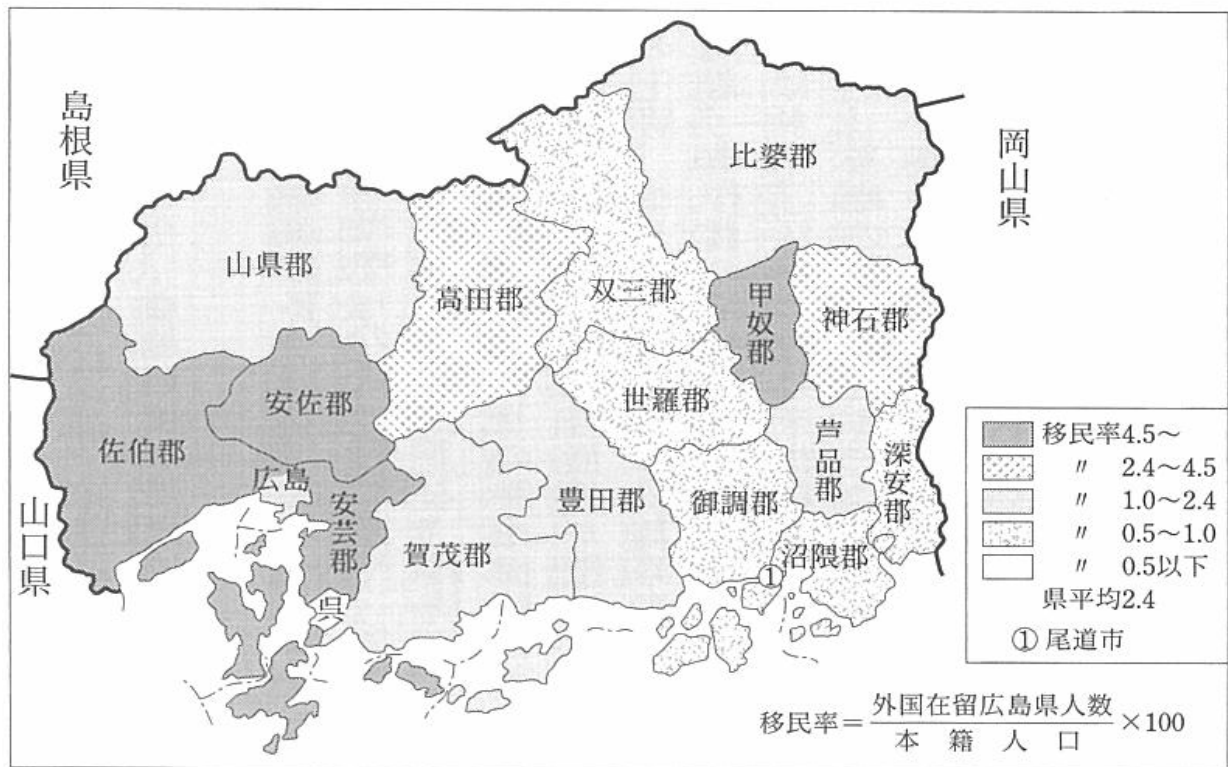
ただ、移民の中には、気候、風土、飲食、労働習慣などの急激な変化によって、健康を害する人もたくさんおり、ハワイでの生活に慣れるのに大変な苦労があったようです。



サトウキビ農園の労働者
(末友明氏所蔵 広島市文化振興課提供)

3 なぜ、広島県からの移民が多いのでしょうか？

現地では、さとうきび畑での刈取りなどの作業や製糖工場での作業などを行いました。監督官のもとで、炎天下での作業や長時間労働は想像以上に大変な



広島県都市別の出移民率（明治40年）『広島県の歴史』（作成：兒玉正昭）

ものでした。そのような^{かこく}苛酷な労働条件の中で、広島県・山口県の初期の出稼ぎ人は、雇い主に「^{やと}真面目によく働く」と良い評価を受け、両県出身者を指定する雇い主もいました。

広島県の官約移民は、広島湾を中心に、県西部の沿岸地域の町村と太田川流域の平野部の町村に多い一方、山間部や島しょ部の町村には少ないなど地域的にかたよりがあります。移民の多いところは、経済的に見ると、次のような地域でした。

- 1 人口が多く農民一人あたりの耕作面積が少ない地域
- 2 綿花、い草、^{あひ}藍など商品作物の普及した地域
（特に多くの労働力が必要だった綿作地域は、外国綿花の輸入増大により栽培面積が激減し、多数の失業者が生まれた）
- 3 ^{かんがい}干害や暴風雨などの自然災害により大きな打撃を受け生活に苦しむ者が増えた地域
- 4 江戸時代以来の出稼ぎの^{ふうちょう}風潮があった地域

また、1884（明治17）年から始まった宇品港の建設工事で漁場を失った人々も多数ハワイに渡ったとされています。

移民が送り出される要因は、送出国と受入国の経済的・社会的事情と、両国の外交政策に大きく左右されますが、初期の移民は、経済的事情が大きな意味をもっていました。



移民者のトランク
（広島市文化振興課提供）

